



- 獣害（サル）対策として顕著な効果
- 柿が豊作で生産意欲を取り戻す
- 子どもたちが牛とふれあう貴重な体験、地域も活性化

1 地域の概要

大枝地区は京都市の南西部に位置し、昔から「塚原筍」、「大枝の富有柿」は全国的にも有名である。昭和51年以降は洛西ニュータウンの造成をはじめとした都市化の波により、農地が減少してきている。市街化調整区域の農地では、特産物である筍・柿を中心に、直売や観光農園による営農が展開されている。

特に柿については、昼夜の寒暖差が大きい恵まれた気象条件を生かし、良質な富有柿が生産され府内でも屈指の産地となっている。



2 経営の概要

	地区総数	柿栽培農家	筍栽培農家	水稻栽培農家
農家戸数（戸）	166	56	120	34
耕作面積（ha）	101.5	21.5	30.7	14.0

3 取組の経緯

当地域は、嵐山などの西山山麓と亀岡市に隣接するため、農地と山林地との境に広がる樹園地については毎年鳥獣による農作物被害が多発している。

特に近年は、地域の特産物である富有柿が、京都第二外環状道路の建設に伴う樹園地の減少に加え、野生鳥獣（特にサル）被害の激増のため山際の柿園ではほとんど収穫できなくなるなどにより、農家の生産意欲が著しく衰退していた。

そこで、京都市及び京都府の協力により、京都市農業協同組合大枝支部が西山の山沿いの整備を行うとともに、耕作地の下草刈りの省力化と獣害防止に効果があるといわれる和牛放牧を行うことにより、緩衝地帯（バッファゾーン）を設け、獣害対策に取り組むこととした。

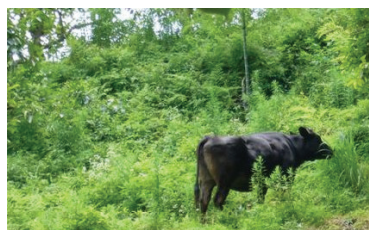
4 放牧の概要

平成20年7月10日から11月28日まで、京都府畜産技術センター碓高原牧場から黒毛和種雌2頭（不妊）を借り受け放牧を実施した。

放牧場（バッファゾーン）の整備は西長農家組合が実施し、約2haの放牧地へ牛柵（電気柵）及び獣害防止柵を約1km設置した。

放牧牛や放牧施設の日常管理は農家組合が担当し、当番制で牛の観察・管理日誌記帳等を行った。

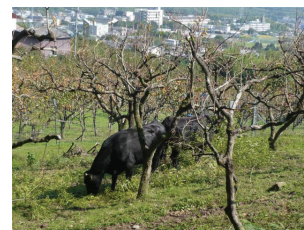
当放牧場では、水源が確保できなかったため、毎日給水施設へ運搬することとなった。



【放牧直後】

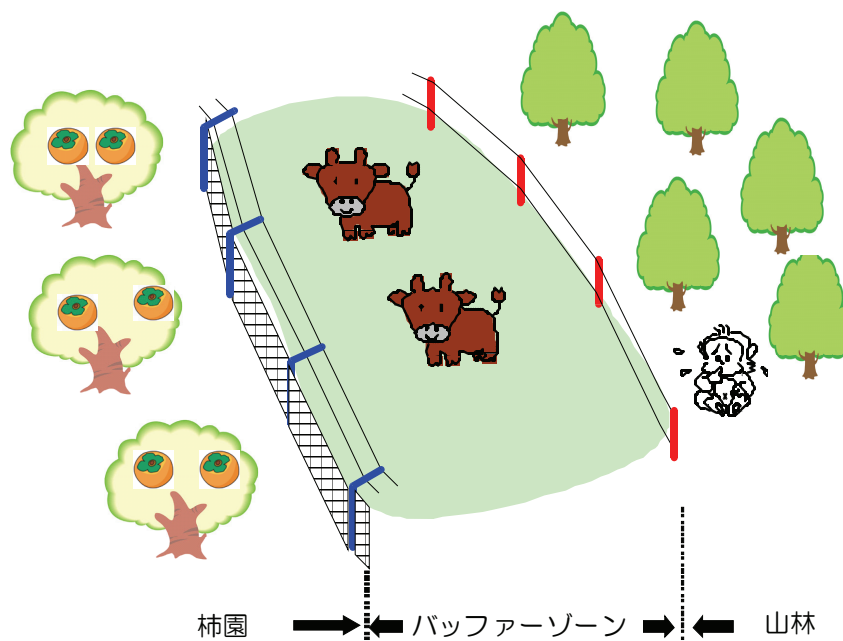


【放牧2ヶ月後】



【放牧3ヶ月後】

＜放牧イメージ＞



5 放牧の効果

昨年、サルによる被害のためほとんど収穫できなかった柿園だったが、放牧することによりバッファゾーンの隣の柿園には被害が見られなかった。

サルによる被害がなくなったことにより、柿が豊作となった。収穫作業に活気が戻り、生産意欲を取り戻すきっかけとなった。

本事例が特色ある取組としてマスコミ等へ取り上げられたことから、牛を見るため人が集まるようになり地域の活性化にもつながっている。

また、都市部でも牛とのふれあい体験ができることにより、地域住民に心の安らぎをもたらすことができた。

また、地元小学生等を集めて写生大会等を実施し、牛と直接ふれあう貴重な体験をする機会をもつとともに、畜産に対する理解醸成にもつながる取組となっている。



【写生大会】



【牛とのふれあい】



【牛にまもられ今年は豊作】

執筆協力・問い合わせ先

京都市産業観光局農林振興室農業振興整備課

TEL：075-222-3352（農業振興整備課）

075-321-0551（京都市西部農業指導所）